

第2章 環境保全及び施策推進

1 美濃加茂市環境基本条例の制定

本市は、中山道の宿場町として栄えた歴史と伝統を有しています。また、緑豊かな大地と清流木曾川に代表される豊かな水に恵まれた自然環境の中で、岐阜県における交通の要衝として、着実に発展してきました。

しかし、近年、社会経済の飛躍的な発展と物質的な豊かさを求める生活様式が、大気汚染、水質汚濁や緑の減少など様々な形で、私たちの身近な自然環境に影響を及ぼしています。

もとより、すべての市民は、良好な環境の下に健康で安全な生活を営む権利を有するとともに、健全で恵み豊かな環境を将来の世代に引き継ぐ責任と義務を有しています。

私たち市民は、身近な環境をはじめ多様な生態系や地球環境の保全の意義を強く認識し、環境への負荷が少なく持続的に発展することができる社会の実現を目指して、地域から行動を起こし、豊かで快適な環境の保全と創出に積極的に取り組んでいかなければなりません。

すべての市民の参加と協働により、水と緑に囲まれた潤いのある環境を守り、そして健全な社会を創り出し、将来の世代まで引き継ぐことを目的として、「美濃加茂市環境基本条例」を平成13年4月1日から施行しました。

この条例は、豊かで快適な環境の保全と創出についての基本的な考え方を定め、市民、事業者及び市の責任と義務を明らかにするとともに、豊かで快適な環境の保全と創出に関する施策の基本的な事項を定めることによって、現在と将来の世代の市民が環境と共生しながら健康で文化的な生活を営むことができるようにすることを目的としています。

2 みのかも環境まちづくりプラン（美濃加茂市環境基本計画）

（1）背景

本市では、美濃加茂市環境基本条例に基づき、平成15年3月に環境基本計画である「みのかも環境まちづくりプラン（第1次計画）」を策定し、総合将来環境像『自然を友とし 環境を育み 未来に引き継ぐまち みのかも』の実現に向けて、取り組んできました。

平成22年度から平成31年度までの第5次総合計画において、環境分野では、環境にやさしい暮らし方を進めるために、「自然環境の保全」・「循環型社会の形成」・「温暖化防止・クールタウンの構築」という3つの基本方針が示されました。その方針に基づき、平成22年3月に「第2次みのかも環境まちづくりプラン」を策定し、市民・事業者・市が連携して取り組む4つの重点プロジェクトに焦点をあてて環境政策を進めています。

今回、第3次みのかも環境まちづくりプランの策定にあたっては、第6次総合計画の環境施策方針に基づき、取組の方向性や長期的目標である将来環境像については、これまでの方針を継承し、新たな課題の解決を図ります。

(2) 総合将来環境像【計画のキャッチフレーズ】

自然を友とし 環境を育み 未来に引き継ぐまち みのかも

(3) 位置付け

本計画は、平成13年4月1日に施行した美濃加茂市環境基本条例の規定に基づき、美濃加茂市における総合的な環境施策を推進していくための計画であり、美濃加茂市第6次総合計画（以下「総合計画」という。）を環境面で補完するという位置づけとなります。

◆環境基本条例第8条

市は、環境に影響を与えると認められる施策を策定したり、実施したりするときは、環境基本計画との整合を図ります。

注：環境基本条例中の環境基本計画と環境まちづくりプランは同じものです。

(4) 目標年度

本計画は、総合計画を環境面から補完するため、目標年度は総合計画に合わせ令和11年度とします。

総合将来環境像、将来環境像、将来イメージは、第1次計画で策定されており、長期的目標年度は平成34年度（令和4年度）になっています。

また、自然環境や社会情勢の著しい変化などがあった場合には、必要に応じて計画の見直しを行うものとします。



(5) 対象分野

環境基本条例及び総合計画の環境分野の基本構想「健康な社会を形成する」を実現するため、次の①～④に関連する環境施策を対象とします。

①自然環境

野生動植物・河川・森林・里山・農地の保全など

②生活環境

ごみ減量、廃棄物処理、4R、公害防止など

③地球環境

地球温暖化対策、温室効果ガス削減、省エネルギーなど

④共通基盤

①～③の共通事項、環境教育など

(6) 推進体制

①市民・事業者・市の連携

市民・事業者・市の3者が連携し、パートナーシップの下に計画を進め、多くの市民が参加できるような仕組みで、重点プロジェクトを推進します。

②総合計画との連動

本計画は、総合計画を環境面から補完する個別計画と位置づけられているため、総合計画の推進体制に組み込み、事業を推進します。

また、行政サービスマニュアルによるPDCAサイクル（P：Plan 計画、D：Do 実施、C：Check 評価・分析、A：Action 改善）を活用し、関係課と連携して全庁的な体制で計画の実現を図ります。

(7) 進行管理

環境基本条例第13条に基づき、自然環境や廃棄物処理の現状と、本計画に関する事業の実施状況について、年次報告書「みのかもの環境」を作成し公表します。

(8) 重点プロジェクト事業

重点プロジェクトは、市民・事業者・市が協働で推進する多様な取り組みの中から、特に重点をおいたプロジェクトです。

①自然環境の分野

生物多様性を守るプロジェクト

みのかも定住自立圏域の町村と共同で策定した「生物多様性地域戦略」により、今後より一層、市民と圏域住民の知識を深め、自然に親しみ魅力を発信する機会を増やすために取り組みます。地域固有の在来種の保護や外来種の駆除については、市民・事業者・市が一体となって知識を深め、保全活動を行っていくことが必要となります。

②生活環境の分野

循環型社会をつくる4Rを推進するプロジェクト

市民・事業者・市が共同で「4R」を推進するために、ごみのもとをなくす「リフューズ」と「リデュース」を普及させるとともに、「リユース」と「リサイクル」の継続した取り組みにより、資源の有効活用に努めます。環境への負担を軽減するためには、ごみ減量に向けての研究と「4R」の継続した取り組みが必要となります。

③地球環境の分野

地球にやさしいエコタウンプロジェクト

市民・事業者・市が連携して、一人ひとりが地球温暖化対策や省エネルギー等の知識を深め行動することで、温室効果ガスの削減につなげます。夏季の猛暑や集中豪雨、冬季の豪雪など、近年の極端な気象の原因の1つとされているのが地球温暖化であり、温室効果ガスの削減は急務です。

④共通基盤の取り組み

次世代につなげる環境教育プロジェクト

市民・事業者・市が連携し、すべての世代を対象とした、環境保全に関する様々な講座やイベントを開催します。すべての世代において、身近な環境への関心を深め、環境に関する様々な講座やイベントに参加するなどして知識のレベルアップを図ることが、環境保全への第一歩であり、環境教育リーダーやサポーターの育成にもつながります。

3 令和5年度 重点プロジェクト事業活動報告

(1) 生物多様性を守るプロジェクト

① 国内外来種「オヤニラミ」生息調査

令和5年3月～11月 全3回 美濃加茂市北部の川
岐阜大学地域科学部と共同実施

② カワゲラウォッチング

市内の河川における環境指標生物の観察会「カワゲラウォッチング」や簡易水質検査の体験を通じ、身近な自然について学習しました。

	学校名	児童数	日時	河川名	場所	学年
1	太田小学校	88名	6月9日	—	教室で水質検査を行った	4
2	古井小学校	160名	6月13日	—	教室で水質検査を行った	4
3	山之上小学校	7名	9月6日	加茂川	農業排水路	4
4	蜂屋小学校	66名	6月15日	蜂屋川	中蜂屋橋付近	4
5	加茂野小学校	130名	6月21日	蜂屋川	21号橋付近	4
6	伊深小学校	18名	7月5日	大洞川	中切橋付近	4
7	三和小学校	6名	6月27日	川浦川	三和小学校付近	全
8	下米田小学校	72名	6月8日	深渡川	下米田小学校付近	4
9	山手小学校	71名	10月5日	—	教室で水質検査を行った	4

講師 美濃加茂自然史研究会 安藤志郎氏

③ 川の生きもの観察会

日時 令和5年7月29日(土) 8時20分～10時30分

場所 川浦川 (三和交流センター付近)

参加者 11名

講師 美濃加茂自然史研究会 安藤志郎氏

④ 野鳥観察会

第1回

日時 令和6年2月3日(土) 9時～11時

場所 ぎふ清流里山公園

参加者 18名

講師 美濃加茂自然史研究会 荒井浩氏 他

(2) 循環型社会をつくる4Rを推進するプロジェクト

① ダンボールコンポスト講習会

日 時 令和6年3月15日(金) 10時～11時00分
場 所 生涯学習センター
参加者 14名
講 師 梶田志郎氏

② 食品ロス削減

(ア) 食材持ち寄り料理教室

※開催を中止

(イ) 家庭で不要な食品の回収

生活学校で不要食品を回収し、令和5年10月21日(土)環境フェアで配布。

③ ごみ減量・リサイクル関係

(ア) 家庭廃棄物処理機器設置事業に対する助成

- ・ 生ごみ堆肥化容器 (購入価格の1/2補助、限度額1基4,500円)
補助基数 29基
補助金総額 78,400円
- ・ 家庭用生ごみ処理機 (購入価格の1/2補助、限度額1基20,000円)
補助基数 14基
補助金総額 266,000円
- ・ 枝粉碎機 (購入価格の1/2補助、限度額1基20,000円)
補助基数 25基
補助金総額 424,500円
- ・ 水切りバケツ (購入価格の1/2補助、限度額1基2,000円)
補助基数 5基
補助金総額 7,200円

(イ) 集団資源回収事業に対する助成

資源の自主的回収を実施したPTA等の市民団体に対し、資源回収業者の引き取り価格が1kg当たり3円を下回った場合に補助金を交付。

補助金総額 74,800円
交付団体 6団体
資源回収量 184t (PTA・市民団体の報告総数量より)

(ウ) 生ごみ発酵促進剤（ぼかし）の普及促進

生ごみ減量に効果のある「ぼかし」製造に対する助成

製造者	製造袋数	助成金額
社会福祉法人太陽の会 太陽の家	8, 172袋	326, 880円

補助金額 1袋（300g入り）につき40円

(エ) 資源回収の取組支援

・みのかもきらきらエコハウス

毎週水曜日 午前9時30分～12時 リバーポートパーク

利用者 年間6, 547名

実施団体 みのかもきらきらエコハウス

回収品目	回収量 (kg)	回収品目	回収量 (kg)
新聞	10, 260	紙容器	3, 180
雑誌	10, 400	アルミ缶	684
チラシ	6, 530	瓶類	0
ダンボール	9, 140		
牛乳パック	571	合計	40, 765

・リサイクルステーション

毎月第1日曜日 午前9時～11時 JAめぐみの下古井出張所駐車場

利用者 年間1, 379名

実施団体 美濃加茂市生活学校

回収品目	回収量 (kg)	回収品目	回収量 (kg)
新聞	2, 140	牛乳パック	83
雑誌	1, 560	紙容器	590
チラシ	1, 480	アルミ缶	130
ダンボール	2, 550	合計	8, 533

(オ) 廃食用油の回収

回収拠点	回収量 (ℓ)	回収拠点	回収量 (ℓ)
ドン・キホーテ	6, 753	保育園等	507
きらきらエコハウス	774	連絡所	0
リサイクルステーション	169		
牧野エコ広場	50	合計	8, 253

回収業者による還元回収量は市の回収量から不純物を除いた数量

(3)地球にやさしいエコタウンプロジェクト

① 緑のカーテン事業

(ア) 種の配布

ゴーヤの種400袋・あさがおの種105袋・にがうり105袋配布

(イ) 緑のカーテン講習会

日 時 令和5年4月29日(土)

場 所 みのかも文化の森 緑のホール

参加者 31名

講 師 NPO法人 e-plus 生涯学習研究所 小林由紀子氏

② おとなのための環境講座(省エネ住宅講座～サイフにやさしいスマートハウス～)

日 時 令和6年2月22日(木)

場 所 生涯学習センター

参加者 合計13名

講 師 NPO法人 e-plus 生涯学習研究所 小林由紀子氏

(4)次世代につなげる環境教育プロジェクト

① 伊深小学校環境教育(4年生)

第1回 地球をめぐる水の循環 令和5年5月23日(水) 伊深小学校教室

第2回 カワゲラウォッチング 令和5年7月5日(水) 伊深町中切公民館付近

第3回 河川環境楽園で課外事業 令和6年1月16日(金) 河川環境楽園

第4回 トンボ池 令和6年2月13日(火) 伊深小学校

講 師 第1回 美濃加茂自然史研究会 安藤志郎氏

第2・3・4回 NPO法人 e-plus 生涯学習研究所 小林由紀子氏

② 水を豊かにする木の観察会 クリスマスリースづくり

日 時 令和5年11月25日(土) 13時～15時30分

場 所 ぎふ清流里山公園 飛驒路

参加者 親子11家族

講 師 美濃加茂自然史研究会 安藤志郎氏

NPO法人 e-plus 生涯学習研究所 小林由紀子氏

4 生物多様性地域連携促進事業（定住）

（1）環境フェアの開催

生物多様性、地球温暖化防止、ごみ減量など環境全般について、定住自立圏域住民の環境への関心を高めることを目的に開催しています。

日 時 令和5年10月21日（土） 9時30分～15時

会 場 ぎふ清流里山公園 屋根付き広場

来場者数 3,421人

（2）自然環境調査

平成27年度から29年度にかけて実施した自然環境基礎調査結果をもとに、追加調査を行いました。

委託先：美濃加茂自然史研究会

（3）「守りたい加茂の豊かな自然」子ども向けパンフレットの原稿作成

平成30年度に定住自立圏域のレッドデータブックである「守りたい加茂の豊かな自然」を刊行しました。生物多様性の現状を正確かつ分かり易く広報するため、小学4年生以上の子ども向けに編集し、原稿を作成しました。

原稿作成委託先：国立大学法人東海国立大学機構

（4）地域間交流

担当者会議を4月、5月、6月、7月、8月、9月、10月、1月、3月に開催しました。